

岐阜県立森林文化アカデミー
「環境教育・インテグレーション研究会」
幼児環境教育プロジェクト

森のムッレ教室 一日体験 ～スウェーデン発 幼児のための環境教育～

萩原 裕作（岐阜県立森林文化アカデミー講師）
高見 幸子（ナチュラルステップジャパン）

スウェーデンからやってきた幼児向けプログラム「森のムッレ教室」をご存知ですか？子どもたちが自然の中で好奇心と五感をフルに使って楽しみながら、感覚的に自然のしくみを理解できるようにつくられたスウェーデンで非常に人気のあるプログラムです。午前は森の中でプログラム体験、午後は室内でワークショップを行います。あなたも森の中での素敵な体験をしに来ませんか？

2009年1月18日（日）

岐阜県立森林文化アカデミー 短期技術研修 グリーンウッドワーク

加藤 慎輔（NPO法人グリーンウッドワーク協会代表）
久津輪 雅（岐阜県立森林文化アカデミー講師）

グリーンウッドワークとは、足踏みろくろなど人力の道具を用い、生の木を削ってつくる木工のことです。電気を用いず環境にやさしいこと、安全で子どもからお年寄りまでできることから、近年注目されています。今回は伐ったばかりの生の木を加工して木のスプーンをつくります。所属される団体でグリーンウッドワーク講座を実施していただけるよう、作品の作り方や道具の使い方を、スライドショーを交え解説します。

講師プロフィール



高見 幸子（たかみ さちこ） NPO法人グリーンウッドワーク代表
1974年よりスウェーデン在住。ストックホルムの基礎学校と高校で日本語教師を務める。1984年より野外生活推進協会の「森のムッレ教室」リーダーとして活動。9年間協会支部の役員と副会長を務める。1995年から、執筆活動等を通じてスウェーデンの環境保護などを日本に紹介。1999年からスウェーデン発の環境保護団体、ナチュラル・ステップの日本事務所設立を担当し、現在は、企業・自治体の環境教育のファシリテーターとして活動中。リサイクル協会、森林条例検討委員会、3R高度化産業構造審議会等の委員も務める。著書に「日本再生のルール・ブック」（海象社）共著に「だれでもできるデボジット」（合同出版）「北欧スタイル快適エコ生活のすすめ」（オース出版）「統・地球の限界」（日科連出版）「幼児のための環境教育」（新評論）



宮本 英樹（みやもと ひでき） 木育ファミリー/NPO法人ねおす専務理事
大学在学中は探検部に所属し、国内外の遠征をフィールドとして活躍。地方新聞社を経て、1994年より北海道に自然・野外学校をつくるために北海道自然体験学校NEOS設立に参加。北海道らしい環境学習、エコツーリズムを推進する一方、地域づくりにも積極的に関わり、黒松内ぶなの森自然学校、登別市ネイチャーセンターふれあすと鉢山の立ち上げを経て現在に至る。生涯学習や体験学習、エコツアーコーディネート、自然を生かしたまちづくり、ネイチャーセンター企画、運営自然ガイド養成など幅広い分野で活躍中。また2004年に北海道で始動した木育推進プロジェクトチームのメンバーとして活動。翌2005年に「木育ファミリー」を発足し、その中心メンバーとして「森のようちえん」や「自然ガイドのための木育講座」など様々な木育事業を展開してきた。共著に「地域からのエコツーリズム」（学芸出版）



山口 昌伴（やまぐち まさとも） 道具学会会長
1937年大阪府八尾生まれ、京都育ち。岡山、彦根を経て東京へ。早稲田大学理工学部建築学科卒業。住宅設計から生活研究へ。専門は住居学・生活学・道具学。道具学会会長、坐る文化研究所長、日本生活学会編集委員、日本産業技術史学会理事。道具に出会うため世界を旅する。主な著書に『台所の一万年』『仕舞える住まいの収納学』（農文協）、「和風の住まい術」（建築資料研究社）、『台所空間学』（建築資料研究社）で日本生活学会今和次郎賞、日本産業技術史学会賞受賞。『世界一周「台所」の旅』（角川書店）。『圓面を引かない住まいの設計術』（王國社）。『台所の一〇〇年』編著（ドメス出版、神戸賞受賞）。『水の道具誌』（岩波新書）。『首から上の道具学』（ラトルズ）。『ちょっと昔の道具から見なおす住まい方』（王國社）など多数。

問い合わせ

岐阜県立森林文化アカデミー

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代88番地 TEL:0575-35-2525 / FAX:0575-35-2529 E-mail:info@forest.ac.jp

岐阜県立森林文化アカデミー 短期技術研修 木育を考えるものづくりセミナー ～木育教材をどう取り入れていくか～

松井 勅尚（岐阜県立森林文化アカデミー教授）
山口 博史（岐阜県立森林文化アカデミー講師）
宮本 英樹（木育ファミリー）
山口 昌伴（道具学会会長）

岐阜の教育現場に「木育」はどう使えるのか？どのような内容が適切なのか？このセミナーでは、幼児教育、小学校低学年対象に絞った、具体的な「木育」プログラムのあり方、「木育」教材のレンタルキットのあり方を、ゲストから情報提供を交えながら、参加者と検討します。

木育フォーラム in 岐阜

～手のひらから森と地球が見えてくる～

みなさん「木育（もくいく）」って聞いたことがありますか？
食べることについて考え直す教育で知られる「食育」と同じように
木（樹）と人のつながりを考え直していくための教育が「木育」です。

かつて生活のあらゆる場面で人と森、人と木はつながっていました。
しかし時代と共にそのつながりが薄れてしまった今、
もう一度人と木をつなげようという動きが今、ここ岐阜県で始まろうとしています。

そんな「木育」をテーマに、地球環境保全を目指した公開講座がアカデミーで開かれます。
豪華ゲストによる講演会、木育関係者によるパネル展示などを予定。
興味のある方、もう一度木（樹）とのつながりを考えなおしてみたい方、ぜひお越し下さい。

2009年1月16日（金）13:00-17:00

主催：岐阜県立森林文化アカデミー
場所：森林文化アカデミー
参加費：無料

木育フォーラム in 岐阜

2009年1月16日(金)

2009
木育フォーラム in 岐阜

12:00～ 受け付け

情報交流タイム①

隣接する情報コーナーにて木育に関する情報を展示しています。関連するNPO団体や、これまでの活動の様子をご覧いただけます。



13:00 開会式

13:20

{

14:20

基調講演(60分)

「北欧から見た日本

～スウェーデンから見た日本の森と暮らしと教育～

高見 幸子 (ナチュラルステップ・ジャパン)

スウェーデンは、その徹底したリサイクルシステムや環境教育をはじめ、木が石油にとってかわりつつあるという環境先進国です。しかし15年前はというと、現代の日本と似ていたというから驚きです。一体どのようにして今のような国になりえたのでしょうか。どうしたら日本も同じような道をたどることができのでしょうか。持続可能な国として世界の一歩先を行くスウェーデンの「からくり」を紹介していただきます。

14:20 情報交流タイム②・休憩(20分)

14:40

{

15:40

講演1(30分)

「木育が生まれて

～木育発祥の地 北海道からの事例紹介～

宮本英樹 (木育ファミリー/NPO法人ねおす)

今から約5年前に北海道で産声をあげた「木育」。一体どのような流れで生まれてきたのでしょうか。そして、そこにはどんな思いが込められているのでしょうか。生みの親のひとりでもあり、木育ファミリーとして北海道をはじめ全国で木育活動を支え続けてきた宮本さんに、木育誕生ストーリーと現在までの活動の数々、そして未来の展望についてお話ししていただきます。

講演2(30分)

「木のちから

～木魂の語るところを聞く～

山口昌伴 (道具学会 会長)

相手をよく知ることが愛のはじまり。愛することが自分の生き方の創出につながる。木をよく知るには眺めるだけよりさわること。木の道具をつかうだけより、木材の言いぶんを問い合わせながら道具をつくること。

木・林・森への愛が自然環境という条件に和する生き方への愛念(パトス)を深める。自然への愛念は食べ事から家づくりまでトータルな暮らしの場(トポス)のたてなおしを求める精神の心根(エートス)となる一と私は木魂(エコ)〔神の声〕に聴いた。

15:40 情報交流タイム③・休憩(20分)

16:00

ディスカッションタイム(40分)

17:00 閉会式



情報交流コーナー

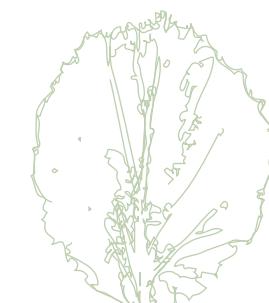
下記のパネル展示のほか、木育に関連するNPO団体や企業の方々の活動の紹介なども多数あります。



交流の森植樹事業概要について

交流の森植樹事業は、岐阜県内に住む外国籍児童が植樹活動を通じて住民と交流し、植樹することでその地域に住んだ証とする事業です。

美濃加茂市で活動しているNPO法人美濃加茂国際交流協会が実施団体となり、平成20年11月7日に美濃加茂市学校給食センター建設地敷地内で市内小学生(ブラジル国籍児童が中心)など約100名が参加して、約200本の苗木を植樹しました。



学校の木を守ろう・育てよう事業

子どもたちの緑に対する意識の向上を図り、郷土愛を育むことを目的に、学校の木を守り(木の専門家による診断・治療)、育てる(自らの手で種を拾い、種から木を育てる)事業を実施しました。

「学校の木を守ろう」事業は、県下12校において、グリーンドクターが校庭内にある木を診断・治療し、今後どうしたら木を守っていくのかを子どもたちに伝えました。

「学校の木を育てよう」事業は2校で事業実施しました。南帷子小学校では自分たちが育ててきたドングリの苗を水源地に植栽することにより、木が果たす役割などについて学びました。



県民で支える森づくり事業

木のぬくもりあふれる製品づくり事業概要

岐阜県は昔から「木の国、山の国」と呼ばれ、豊富な森林資源に恵まれていますが、子どもたちの大切な遊び道具として「ぎふの木」を使ったおもちゃはほとんど普及していない状況です。

そこで、県では全国からおもちゃのアイデアを募集し、安全・安心なおもちゃの製作、普及、モニター調査を実施しています。「ぎふの木」に触れ、ぬくもりを感じて頂くことにより、子どもから大人に至るまで、「ふるさとぎふ」の森林や木材利用について、考える契機となるよう事業に取り組んでいます。